

令和8年度第2回野々市市総合計画審議会 議事録

日 時 令和8年10月9日（金） 午後2時から午後3時25分

場 所 野々市市役所2階 ホール椿

次 第 1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）野々市市第二次総合計画後期基本計画（案）について

4 その他

5 閉会

AMANDA ROSARIO

出席委員 JOSEPHINE GABRIELLA 池田 千可子委員 石田 修委員 垣坂 太佳盛委員

ANRIBALI 委員

笠間 悟委員

北川 優委員

北村 恒委員

下川 雄一会長

高瀬 寿彦委員

高田 功委員

千葉 康平委員

中出 恵美委員

松岡 砂都美委員

山田 光葵委員

吉岡 潤委員

欠席委員 北川 千里委員

小柳 喬副会長

中村 昭一委員

畠 紀子委員

事務局 山口副市長

栗総務部長

東地域政策部長

増山健康福祉部長

道下建設部長

松村教育部次長

荒木企画財政課長

1 開会

委員 19 名のうち、14 名が出席（会議途中から追加で 1 名出席）

会議概要の説明

2 会長挨拶

3 議事

資料確認

野々市市第二次総合計画後期基本計画（案）について、事務局より説明

- （１）前回審議会で承認された事項
- （２）加速化プロジェクトの考え方（重点的に推進する施策）
- （３）主な見直し内容と成果成果指標

< 事前質問に対する回答 >

【 質 問 】（A 委員）

資料 1-1 42 ページ 基本目標 3 施策 4 防犯対策・消費者安全の強化

基本目標 3 「みんなで取り組む安全・安心なまち」の施策 3 において交通事故発生件数が低く抑えられているのは、大変な努力の成果だと思う。一方で、施策 4 の防犯対策については、R7 実績において、目標値を超える「犯罪発生件数」が記録されている。防犯カメラの設置も順調に増えているが、今後、より発生件数を低く抑えるために、特に市として意識している対策や実施計画はあるか。

【 回 答 】

令和 7 年度の犯罪発生件数が目標値を超過したことについて、非常に重く受け止めている。現在注力している具体的な対策や今後の取り組みの 1 つ目は、自転車盗難被害防止対策。本市での刑法犯認知件数の約 3 分の 1 が自転車盗難であり、こうしたことから、本市では警察署や市防犯協会など防犯関係団体と連携し、鍵かけの推奨や防犯意識の向上を呼びかける自転車盗難防止キャンペーンを定期的実施している。また、地域における犯罪防止力を高めるために、青色回転灯を装備した車両で市内を巡回する防犯パトロールも実施している。2 つ目は、特殊詐欺の被害防止対策。白山警察署や市防犯協会などと連携し、高齢者などを対象とした防犯講習を開催し、最新の犯行手口の紹介や被害を未然に防ぐための知識の普及に努めている。今後も引き続き、関係機関との連携をさらに深め、犯罪発生件数の減少に向けた施策を推進していく。

【 質 問 】 (A 委員)

資料 1-2 主な見直し内容と成果指標

野々市市は活気あふれる市で、市内の若者比率も高いとのことで、明るい将来性を持つ自治体だと強く感じている。市域は小さいながらも、様々な魅力ある特産物や各目的に応じた中核施設を数多く有しており、地域の魅力の発信力は極めて高いと感じた。一方で、「協働間・参画感・高齢者の介護などを含む住人同士の支えあい」といった項目で実績が目標に届いていない部分については、昨今の希薄な人間関係などの社会背景も色濃く影響しているものと推察している。全国的に似通った状況が生まれているかと思うが、この部分について、野々市市では他の自治体と比して何かユニークな取り組みはしているか。

【 回 答 】

委員のご指摘のとおり、昨今の希薄な人間関係などの社会背景も影響し、地域コミュニティづくりは、今後ますます難しくなっていくものと考えている。そうしたことから、本市では、これまでのコミュニティの核となる町内会の支援に加え、市民が主体的になって社会貢献活動を行うことで社会の多様化したニーズに応えるための組織である「市民活動団体」の育成支援に努めている。この団体の登録数を、計画の成果指標にも掲げている。本市には昨年度末現在、48 団体の登録があり、子どもの健全育成に関する分野、保健や医療、福祉の分野での活動を行っている団体が多い状況。大学生が中心となって活動されている団体もある。小さい市域の中に大学が 2 つあり、多くの学生が住んでいるということが本市の強みであり、これまで以上に学生の方々に、地域活動に参加いただき、地域の課題にも取り組んでいただくことがますます重要になってくると思っている。大学は専門知識を使って社会や地域の課題を形にしていける学びの場もあり、これまでも様々な提案をいただいている。学生の皆さんに地域活動にまず参加していただき、若い方からのユニークな取り組みが生まれることを期待したい。

【 質 問 】 (B 委員)

資料 1-1 42 ページ 基本目標 3 施策 4 防犯対策・消費者安全の強化

住んでるところで空き家が増えているが、空き家対策はどのようにしているのか。

【 回 答 】

空き家対策を総合的かつ計画的に推進するために、「空家等対策計画」に基づき、苦情等相談があった際には所有者へ適切な管理を促すとともに、改善に向けた働きかけを行っている。現在は、空家等対策計画の更新に向けた実態調査を市内全域で実施しており、最新の状況把握に努めている。今後も調査結果に基づき、特に状態の悪い物件について関係部署と連携し、法的な措置を含む行政対応を迅速に進めていく。

【 質 問 】 (B 委員)

資料 1-2 8 ページ 2 まちの個性・魅力発信の再定義

「北国街道の回遊、日常的にぎわい」とあるが具体的な計画はあるのか。

【 回 答 】

旧北国街道は歴史的文化的な地域資源が集積しており、これらを生かした地域の活性化は重要な課題であると考え、令和 4 年度に「北国街道まちづくり基本計画」を策定した。この計画に基づき、具体的な施策を展開することとしている。拠点整備としては、郷土資料館の民間活用を推進しており、歴史的価値のある建物を効果的に利活用し、飲食や物販、ワークショップなどを通じて市民や来訪者が日常的に立ち寄り、滞在できる環境を創出している。また、市の観光物産協会やボランティアガイドののいち里まち倶楽部、北国街道野々市の市実行委員会などの多様な主体と連携し取り組んでいる。具体的には、魅力を体験できるイベント「IKERU NONOICHI」や、地域住民が主体となって開催されている「北国街道野々市の市」など、様々なイベントを通じて、エリアの認知度向上と賑わいの創出を図っていきたいと考えている。これらの取り組みに加え、SNS 等を活用した情報発信も強化することで、近隣市町からの観光客の誘客にも積極的に取り組んでいきたい。これら拠点整備とイベント、広域的な情報発信を連動させ、歴史的なまちなみを活かした回遊環境を構築し、交流人口の拡大と日常的な賑わいを創出していきたい。

【 質 問 】 (C 委員)

資料 1-1 36 ページ 基本目標 3 施策 1 自然災害を教訓とした防災対策の充実

取組概要 2「災害リスクの見える化と一人ひとりの備えに対する支援」に、「家庭における防災用品の備蓄の推進」と明記がある。近似する事例として津幡町では今年 8 月から、世帯人数分の防災備蓄品を配布する「津幡町防災備蓄用品配布事業」を開始されているが、本市において具体的にどのような取り組みを検討しているのか。

【 回 答 】

取組概要に「災害リスクの見える化と一人ひとりの備えに対する支援」を新設した。具体的な事業として「家庭における防災用品の備蓄促進」を掲げている。既に実施している取り組みとしては、市の総合防災訓練に参加された市民へ携帯トイレの配付を通じて、家庭用防災備品の備蓄を呼びかける啓発活動に取り組んでいる。また、家庭向けの感震ブレーカーの購入や設置にかかる費用の一部を補助している。新たな取り組みの検討としては、家庭での防災用品の備蓄を促進していくため、先進自治体の取り組みの内容や実績の状況の調査を進めている。

＜当日の質疑応答＞

【 質 問 】 (D 委員)

事前質問に対する回答について

空き家対策の調査はどのように行っているのか。

【 回 答 】

空き家の調査方法については、固定資産の情報や水道の開栓・閉栓の情報から空き家と思われるものを抽出するなど既存資料を元に、調査員が現地を回っている。その際は、調査員が回る旨、広報で周知を行っている。

【 質 問 】 (E 委員)

資料 1-2 6 ページ 1 自然災害を教訓とした強靱なまち実現

取組事例として、市の総合防災訓練に参加された市民へ携帯トイレを配付した話があったが、参加者ではなくて、市民全員に配付ということはこれから考えてもらえるのか。また、感震ブレーカーの設置に対する補助制度が野々市市にはあるのか。最後に、近年、消火栓が地下に埋まっているため、使い方が分からず初期消火の対応が町内会ではできないと感じる。火災が発生した場合、どのように対応すべきか。

【 回 答 】

津幡町では、欲しいと手を挙げた世帯に配付したところ、全世帯の約半分に配付したと聞いている。一方で、白山市では、防災用品を購入した場合に補助金を出す制度を設けている。補助金として支援するのか、防災備品を市が購入して配付するのか、どちらの方が防災備品として管理できるかという視点も踏まえながら検討をしている。次に、感震ブレーカーについては、本市では補助金制度を実施しているため、ぜひ活用してほしい。最後に、消火栓の使い方については、事務局通して後日回答する。(別途資料参照)

【 質 問 】 (F 委員)

資料 1-1 40 ページ 基本目標 3 施策 3 交通安全対策の強化

これからの課題として、通学路や生活道路の安全対策が必要と記載があるが、通学路の点検をどれぐらいの頻度で行っているのか。また、対策を講じた場合は何をしたのか。

【 回 答 】

通学路の点検は、学校や PTA 等からの意見をもとに、年に一度、毎年秋頃に一斉点検を行っている。これまでに行った代表的な取り組みとしては、歩道がない箇所路肩部分への着色や、交差点でのガードパイプの設置などを行った。

【 質 問 】 (G 委員)

資料 1-1 ページ 基本目標 4 施策 1 環境負荷の少ない社会の構築

公共シェアサイクルは、基本目標 7 施策 2「交通の円滑化と公共交通網の充実」で期待されるような、交通の利便性が高まることと同時に、基本目標 4 施策 1 の「環境負荷の少ない社会の構築」という面でも、大きな役割を果たすのではないかと。普段、車などで移動していた人が公共シェアサイクルを利用することで二酸化炭素の削減に繋がるため、この公共シェアサイクル導入という取り組みを環境の分野でも事業として加えるべきではないかと。

【 回 答 】

公共シェアサイクルについては、令和 9 年度の本格実施に向け、今年の夏頃から、社会実験を行っている。環境負荷の低減についても非常に有効な視点だと思うため、その視点も踏まえながら、社会実験の結果を見つつ検討していきたい。

【 回 答 】 (H 委員)

地球温暖化を一定のレベルに抑えるために、私たちが排出可能な温室効果ガスの量には限りがあるという考え方があり、そのために一人ひとりの行動を変えていく必要があると思う。そう考えると、今回の公共シェアサイクルは、まさに環境負荷の少ない社会の構築のためのふさわしい例。実際に友達から、「便利になった」「移動しやすくなった」という意見も聞いている。交通の利便性を高めながら環境にもいい影響を与えることができる取り組みだと思う。

【 質 問 】 (I 委員)

資料 1-2 5 ページ 4 自然災害を教訓とした市民同士のつながり

社会福祉協議会は市と協働し、市内で災害があった場合には災害ボランティアセンターを設置し、他団体等と連携した取り組みを進めることとしている。被災した場合には、以前は個別にボランティアを依頼するケースが多かったが、近年は、町内会やエリアごとに依頼するケースが多くなっている。そのため、これまで以上に地域内の連携が必要になってくる。そこで、4「自然災害を教訓とした市民同士のつながり」の強化要素として、追記すべきではないかと。

【 回 答 】

社会福祉協議会は市の組織ではないため、直接的には書いていなかった。社会福祉協議会の活動について、追加を検討する。

【 質 問 】 (G 委員)

資料 1-1 20 ページ 基本目標 1 施策 3 多文化共生と国際交流の充実

実習生、技能実習生の制度を利用して働くような外国籍の方をよく見かけるようになったと感じている。そこで、施策 1 の 3 にあるような「多言語での情報発信」も共生していく上で基本として大切だが、外国籍の方々を支援対象の対象として捉えるのではなく、野々市市を生き生きとさせる、賑わいをもたらす担い手として捉え、活躍してもらう場がさらにあってもいいかと感じた。地域の行事への参加以外に、外国籍の住民の視点をまちづくりに取り入れ、地域に関わってもらう仕組みづくりについて、他の委員に意見を聞きたい。また、外国籍の人による犯罪がよくニュース等で取り上げられているが、どのように子どもたちを守っていくべきと考えているかも含め、意見を聞きたい。

【 回 答 】 (H 委員)

友達に実習生がいるが、多くの実習生には地域の情報が届いていないと思う。市の情報は、SNS に流れているものの、市の公式 SNS 等を登録しているわけではないため、何か登録するきっかけなどがあればいいと思う。

【 回 答 】 (J 委員)

交流によって、学ぶことが多く、また互いに顔が見えるようになるため、犯罪の抑止にも繋がると感じた。

【 回 答 】

市内で生活する外国の方は、年々増えており、今後も増えていくと思っている。市の取り組みとしては、毎月市から発行している広報紙に関して、日本語も含めて 10 言語で表示が可能なアプリを昨年度から導入している。市の公式 SNS 等の登録を促進する取り組みや、外国の方々と交流する場の拡充について検討していきたい。

【 回 答 】

外国の方々に野々市に馴染んでいただくために、ゴミの出し方や病院の場所を英語で表記したパンフレットを作成し配布を行った。防犯対策については、外国籍の方に限らず、日本人も同様に、警察と連携して発生防止のための取り組みを進めていく。

【 質 問 】 (K 委員)

野々市市は大学生が多いと思うが、卒業後に住み続ける大学生は少ないと感じる。その学生たちに卒業後も住み続けてもらうために、現在どのような課題があり、どのような対策をしているのか。

【 回 答 】

石川県内で一番行政区域が狭い市域において、2次産業、3次産業が多く、ものづくりの大きな企業が少ないという現状の中、金沢工業大学等の卒業生は技術系の職場を求め、県外や市外の方に転出してしまおうと考えている。市内の企業、大学、商工会等と連携し、学生を引き止めるような施策ができないか検討していきたい。また、今年の10月から、野々市の大学を卒業し就職された方が奨学金を借りている場合に、返済金に対して市が補助金を出す新たな制度を開始している。この制度についても大学等を通じて、学生に周知を図っていきたい。

【 質 問 】(K 委員)

野々市市はYouTube や X、Instagram などでの発信をしているが、SNS 等での情報発信において一番難しいのは集客なのかと感じる。具体的にどのような取り組みをしていくのか。

【 回 答 】

市公式 SNS 等の登録者数を増やすため、啓発品を用意し、登録していただいた方にプレゼントする取り組みを東京のアンテナショップで実施した。一度登録していただくと、関係人口として繋がっていただける方が増えると思っている。市内などでは、登録していただいた方には郷土資料館の入館料が無料になるクーポンを配布し、登録者数が増えた実績がある。市の情報に興味がない人にもイベント等を通じて、多く登録していただけるよう、多くの方に繋がっていただけるよう努めていきたい。

【 質 問 】(L 委員)

資料 1-1 53 ページ 基本目標 5 施策 2 みんなで取り組む青少年の育成

中学校の部活動が地域に移行することに伴い、部活動がなくなるという話もある中で、子どもの居場所づくりなどについてどのように考えているか。

【 回 答 】

現在、様々な教育委員会組織の団体等と議論をしているところであり、部活動を希望する中学生を取り残さないよう、協議を進めている。

【 質 問 】(L 委員)

資料 1-2 7 ページ 3 高齢化を踏まえた生活の質の向上

シルバーリハビリ体操教室の活動状況について聞きたい。

【 回 答 】

シルバーリハビリ体操指導士の養成講座については、昨年度から石川県理学療法士協会の方の指導をいただきながら第 1 期、2 期にわたり実施した。講座を受けていただいた方 50 数名が、市内で認定講師となり、町内会や市内の地域サロンなどを通じて、シルバーリハビリ体操の普及に努めていただいている。活動実績としては、20 数回の講座が開かれており、今後この体操を広く普及することで、フレイル予防と認知症の予防の効果を期待している。

【 質 問 】(J 委員)

資料 1-2 9 ページ 3 デジタル技術によるネットワーク

成果指標「住民視点 DX に関する取組件数」に関して、昨年度の実績が 0 件で、目標値 1 件とあるが、現在実施していることや今後検討していることはあるか。

【 回 答 】

行政向けの AI に関しては、今年の 4 月から生成 AI が本格稼働しており、文章校正などに活用している。デジタル技術による業務の変容・変革については、今年の 5 月に、第 2 期野々市市 DX 推進計画を策定している。この計画の中で、事務の効率化を検討しており、電子決済の充実や書かない窓口の促進、窓口まで来なくても証明書が取得できるサービスを行うための準備を計画している。住民向けの DX に関しては、自宅から手続きができるシステムの研究とシステムの選定にあたっての調査を行っている。

【 質 問 】(M 委員)

資料 1-1 59 ページ 基本目標 5 施策 5 スポーツ活動の充実

(1)「めざす姿」の 2 つ目、「幅広い世代の市民が、スポーツイベントやスポーツ団体の活動への参加、プロスポーツ選手との交流などを通じ、人と人とのつながりを育むことができるまちをめざします。」とあるが、このめざす姿であれば、どの基本目標でも使えるような目標だと感じる。そのため、人と人とのつながりによって、スポーツをどう高めていきたいか、どう充実させていきたいか、についても加えると、スポーツにおけるめざす姿としてふさわしくなるのではないか。例えば、「スポーツに親しむ裾野を広げる」としたほうがいいのではないか。

【 回 答 】

目標がはっきり見えないというのはご指摘のとおり。指摘いただいた内容を踏まえ、言葉を見直したい。

野々市市第二次総合計画後期基本計画（案）について事務局案のとおり承認

4 その他

5 閉会